

1 題材名 最上級生として【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 4月

2 題材について

児童は、6年生になった4月を、喜びや希望、不安などの様々な気持ちを抱いて迎える。同時に、最上級生として学校の代表的な存在として自分たちが活躍する様々な場面があることに気付く。年度初めのこの時期に、最上級生であることを学級全体で話し合い、荒川小のリーダーとしての自覚をもって責任を果たそうとする目標をもつことができるようにしたい。また、この活動を通して、一人一人が希望や目標をもち、それぞれの資質や能力を生かしながら学級の仲間と協力して居がいのある学級作りをしていくことも目指したい。

3 題材の目標

- 学校行事や児童会活動、清掃活動などで自分たちが活躍すべき場や活動の内容について関心をもち、進んで調べ、最上級生としての目標をもつとともに、居がいのある学級の在り方について考えようとする。(関・意・態)
- 学校行事や児童会活動、清掃活動などで自分たちが活躍すべき場や活動について、友達と話し合いながら、最上級生としての目標と居がいのある学級作りについて考え、自分の考えを発表することができる。(思・判・実)
- 最上級生として自分たちが学校をよくしていくためには、学校行事や児童会活動、清掃活動など、様々な場面で全体のことを考えて活動し、協力していく必要があることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 学校行事や児童会活動、清掃活動などで、全体のことを考えて活動していく必要があることに気付く、実践しようとする。(実践力)
- ◆ 学校のリーダーとして自分たちが活躍することが、学校をよくしていくことにつながることを知らせ、最上級生としての役割や責任の大切さを伝える。(4-(3) 役割と責任の自覚)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 最上級生として必要な仕事の内容や行事での役割等について調べておく。 (休み時間・ふれあいタイム)	○ 年間行事計画を提示したり、昨年度の6年生の活動の様子を知らせたりして、児童が考えやすいような資料を用意する。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「めざせ！荒川小のリーダー」
- ② 活動のねらい 6年生の在り方を考え、自分のめあてをもとう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 調べてきたことをもとに、最高学年の仕事や責任について、教師の話を聞く。	○ 5年生と6年生の違いを、年間行事計画を示しながら説明したり、代表委員や清掃班の班長などの具体例を挙げて話したりする。
展開	2 調べたり話し合ったりして分かったことや6年生での夢や希望、不安などを発表する。 3 発表し合ったことをもとに、6年生としての在り方を話し合い、目標に書く。	○ 様々な気持ちを自由に話し合える雰囲気作りをする。 ○ 自分たちのこれからの役割を自覚し、考えられるようにするために、友達の発表した意見に付け足す意見や反論する意見をつながけながら発表できるよう助言する。 ◇ 最高学年としての自分の目標を書くことができたか。
終末	4 6年生としての目標を発表する。	○ 目標カードを教室の壁面に掲示し、児童がいつでも確認、振り返りができるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 学校行事や児童会活動などの様々な場面で自分のめあてをもち、活動に取り組む。 (常時活動)	○ 学校行事や児童会活動などの様々な場面で、児童の活動のよさを見つけ、称賛していく。 ◇ 自分たちの活動によって、学校がよくなっているということに気付いているか。

# 1 題材名 修学旅行【内容(2) 希望・目標】

指導の時期 5月

## 2 題材について

修学旅行については、その日程や活動などについて、社会科の学習や総合の時間で学んでいくことが考えられる。ここでは、学級活動という集団活動の特質から、活動内容を設定していく。グループの決め方や活動の約束などを話し合ったり、バス移動中の活動について話し合ったりすることを大切にしたい。この活動を通して、学級のみんなが楽しく活動できるようなグループの作り方について話し合ったり、協力して活動したりしていくことができるような資質や能力を育成したい。

## 3 題材の目標

- 思い出に残る修学旅行にする様々な活動や決まりに関心をもち、臨海自然教室の経験を発表し合ったり、グループの決め方を話し合ったりする活動に意欲的に参加している。(関・意・態)
- 臨海自然教室の経験や修学旅行のガイダンスをもとに、誰もが楽しい修学旅行となるようなグループの決め方を考え、発表することができる。(思・判・実)
- 誰もが楽しい修学旅行とするためには、相手のことを考えながら仲良く活動することや互いに協力し合うことが大切であることが分かる。(知・理)

## 4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 話し合い活動では、自分の意見に固執せず、全員が納得して活動できることを考えながら参加し、どのような活動内容がよいか判断する。(判断力)
- ◆ 楽しい思い出作りの一つとなるような修学旅行にするために、グループの決め方や活動内容を考え、実際に活動することを通して、友達と仲良くし、助け合うことの大切さを実感させる。(2-3) 友情・信頼、助け合い)

## 5 題材の展開

### (1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 計画委員から、グループの決め方と約束を考えておくようにお願いする。 (帰りの会等)	○ これまでの宿泊学習を思い出させ、楽しい修学旅行にするためのグループ作りに大切なことは何かを考えやすくする。

### (2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「思い出に残る修学旅行にしよう」
- ② 活動のねらい 誰もが楽しく活動できるようなグループを決めて、バスの中のレクレーションや宿泊施設での過ごし方などの活動内容について相談しよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 誰もが楽しい修学旅行にするために話し合うことを議長が伝える。	○ グループの決め方は、誰もが楽しく仲良く活動できるように考えて話し合うよう助言する。
展開	2 グループの決め方や約束を話し合い、グループを決める。 3 グループごとに活動計画を立てる。	○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 人間関係を十分考慮し、誰も嫌な思いをしないよう十分な支援を行っていく。 ○ グループの計画については、相談内容に応じて助言する。事後の活動として、内容(1)で1時間確保し、2時間扱いとすることもできる。 ◇ 誰もが楽しく仲良く活動できるようなグループの決め方や活動の約束を話し合うことができたか。
終末	4 本時の活動を振り返り、教師の話聞く。	◇ 話し合いのめあてを達成することができたか。

### (3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ グループの活動計画やバスの中のレクの計画を話し合う。(総合・休み時間等) ・ 活動の約束を守って、修学旅行に参加する。 (修学旅行)	○ 修学旅行のしおりを作成し、児童に配布する。 ○ 各グループの話し合いの様子や計画を認め、それぞれに合った助言をする。 ◇ 全員が楽しく修学旅行に参加することができたか。

# 1 題材名 歯の健康【内容(2) 健康・安全(体)】

指導の時期 6月

## 2 題材について

6年生は、これまでの学習や経験から、むし歯になる原因や、歯みがきの大切さを十分に理解していると考えられる。また、乳歯から永久歯へ生え変わる(歯が抜ける)という経験をし、永久歯を大切にしなければならないということも分かっている。しかし、その一方で、むし歯に罹患している児童が少なくないのが現状である。中には、永久歯がむし歯になってしまったという児童もいるかもしれない。

ここでは、むし歯の原因やむし歯を防ぐ方法を話し合わせたり、養護教諭の協力を得て専門的な立場から実演や説明、染め出し等をしてもらったりすることで、むし歯予防の意識を高め、健康な歯を保つ意識を高めさせたい。

## 3 題材の目標

- むし歯予防の方法やむし歯の原因について振り返り、自分の歯を確認することでむし歯予防への興味・関心をもち、積極的にむし歯予防を行おうとする。(関・意・態)
- これまでの学習や養護教諭の説明をもとに、むし歯予防の方法を考えて自分の意見を発表することができる。また、自分のめあてをもとに、むし歯予防を実践することができる。(思・判・実)
- むし歯予防の方法を知るとともに、むし歯の原因について再確認し、毎日欠かさずブラッシングを行ってむし歯予防に努めることが大切であることが分かる。(知・理)

## 4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

◆ むし歯予防についての話を通して、毎日欠かさずむし歯の予防に努めることが大切であることに気付かせ、健康に留意しながら規則正しい生活が送れるようにさせる。

(1-1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制)

★ 歯の健康について考える活動を通して、生活習慣を見直し、よりよい生活習慣の定着を図る。(保健指導)

## 5 題材の展開

### (1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯ブラシの点検をする。(給食等)</li> <li>・ むし歯の原因を考える。(朝の会・帰りの会等)</li> </ul>	○ これまでの学習やむし歯になったときのこと、むし歯予防に大切なこと等を想起させ、むし歯の原因を事前に考えさせるよう全体に声をかけることで、むし歯に対する関心を高める。

### (2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「歯の健康について考えよう」

② 活動のねらい むし歯になる理由やむし歯予防の方法をもう一度おさらいして、むし歯0を目指す。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、むし歯予防の大切さについて発表する。 2 教師と養護教諭の話聞く。	○ むし歯の有無を問いかけるとともに、現在の歯の様子について確認させる。 ○ むし歯がない児童も、むし歯を防ぐ方法を考えることを伝え、課題意識や目的意識をもたせる。
展開	3 むし歯の原因について話し合う。 4 むし歯予防をする上で大切なことを話し合う。 5 間食の方法やブラッシングについて、養護教諭の話聞く。	○ 普段の自分の生活を想起させる。 ○ 養護教諭が具体物や資料を提示して、むし歯の原因や間食の摂り方、ブラッシングについて説明することで、児童の理解を深められるようにする。 ○ むし歯の原因や各家庭の実態から、自分の生活に合ったむし歯をなくす方法やむし歯の予防方法を考えさせるようにする。 ◇ 話し合ったことや聞いたことをもとに、むし歯予防の方法を考え、自分の意見を発表することができたか。
終末	6 むし歯予防についての話し合いを振り返り、教師の話聞く。	○ むし歯の予防のために今後実践していきたいことを記述させ、実践意欲が高まるようにする。

### (3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のめあてを意識してむし歯予防を行う。(随時)</li> </ul>	○ 授業で用いた資料を提示し、自分のめあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿ってむし歯予防を積極的に行おうとしているか。

1 題材名 1 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 7 月

2 題材について

小学校生活最後の年になり、6 年生は全校生の手本として生活するようになる。また、様々な場面で先頭に立って行動することにもなり、一人一人が活躍する場面も増えてくる。そのような生活の中での成果や改善点、具体策などを話し合わせ、1 学期間の自分たちの成長を振り返るとともに、2 学期に向けて生活をよりよくしていこうとする態度を育てたい。

3 題材の目標

- 1 学期の学習や生活について振り返り、成果や改善点、具体策などについて話し合い、2 学期のめあてを考えている。(関・意・態)
- 1 学期の学習や生活を振り返り、成果や改善点、具体策を発表することができる。(思・判・実)
- 1 学期の反省をもとに 2 学期のめあてを立てることを通して、課題意識をもって生活をよりよくしていこうとするものの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくものの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等)	○ 1 学期の生活を振り返らせ、どのような生活を送ってきたかについて、うれしかったことや楽しかったこと、大変だったことを中心に記述させる。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「1 学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 1 学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、1 学期の生活について話し合う。 2 教師の話聞く。	○ 学習や生活の様子を想起できない児童には、学校行事や学年行事等の様子を伝え、想起できるよう支援する。 ○ 1 学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。
展開	3 2 学期にどのように生活していきたいか話し合う。 4 2 学期のめあてを記述する。 5 記述したことを発表する。	○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。 ○ 1 学期のめあてで達成できなかったものは、2 学期に継続してもよいことを伝える。 ◇ 1 学期の生活について振り返り、2 学期のめあてを立てることができたか。
終末	6 教師の話聞く。	○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、2 学期の学校生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動)	○ めあてを掲示し、めあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿って生活しようとしているか。

1 題材名 夏休みの生活【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 7月

2 題材について

夏季休業は、6年生の児童にとって楽しみであると同時に、中学進学に必要な学力を身に付けるための大切な復習の時間となる。保護者には、学年懇談会や学年だより等で理解と協力を呼びかけるが、児童自身にも、計画的に取り組むことの大切さを理解させたり、やり遂げた達成感を味わわせたりすることが重要となる。

そこで、夏季休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、どのような計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせ、夏季休業をより充実したものにしていこうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 夏季休業中の学習や生活について、自分に合った計画を立てたりめあてを考えたりしている。 (関・意・態)
- 夏季休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画を知り、自分に合った計画を立てたり、めあてを考えたりすることができる。 (思・判・実)
- 夏季休業中の学習や生活について、計画的に取り組むことの大切さが分かる。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

◆ 自分で立てた計画やめあてを意識することによって、節度ある、自立した生活を送ろうとする態度を育てる。(1-(1)生活習慣、思慮・反省、節度・節制)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 夏休みの計画表に、夏季休業中の予定を記入する。 (家庭)	○ 学年懇談会や学年だよりで、夏季休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した夏休みにしよう」

② 活動のねらい 夏休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、夏休みの生活について、教師の話聞く。	○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について
展開	2 夏休みのめあてを立てる。 3 夏休みの学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。	○ 少し努力して取り組めるめあて、計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、夏休みの計画を立てているか。
終末	5 教師の話聞く。	○ 夏季休業の過ごし方の大切さを説明し、夏季休業の生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画やめあてを意識して夏休みの生活を送る。 (夏休み)	○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に夏季休業を過ごすことができたか。 (課題、日記等の提出状況)

1 題材名 居心地のよいクラス【内容(2) 人間関係】 指導の時期 9月

2 題材について

2学期にもなると運動会に向けて、学級としての雰囲気が出てくる。そこで、この時期に自分たちの学級について改めて目を向け、その長所を中心に話し合うことにより、よりよい学級にしていこうとする意欲や態度を育てていきたい。

3 題材の目標

- 6年○組の長所について進んで意見を発表し、さらにその長所を伸ばすための話し合いに意欲的に参加している。(関・意・態)
- 長所をさらに伸ばすためのアイデアを考えたり、自分たちでできることを話し合ったりして、実践していこうとすることができる。(思・判・実)
- 学級の長所をさらに伸ばすために互いに協力していくことの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 話し合い活動では、自分の意見に固執せず、全員が楽しめる活動は何かということを考えながら参加し、どのような活動内容がよいか判断する。(判断力)

◆ 学級の長所を自分たちで考え、その長所をみんなで協力してさらに伸ばしていこうとする心情を養いたい。また、具体的な活動を行うことで互いに協力し合い、よりよい人間関係を作れるようにする。(2-(3) 友情・信頼、助け合い)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 計画委員が学級全員に、6年○組の長所を考えておくよう伝える。 (帰りの会等)	○ 自分たちの学級を、さらによくしていくための活動であることを意識付けさせるようにする。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「6年○組の長所を伸ばそう！」

② 活動のねらい 6年○組のよさを話し合い、その長所をさらに伸ばすためのアイデアを出し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 自分たちの学級の様子について、教師の話聞く。	○ 自分たちの学級の長所をさらに伸ばしていくための活動であることを意識付けさせる。
展開	2 考えてきた自分の学級の長所や短所を発表する。 3 発表された意見をもとに、長所を伸ばし、短所をなくすにはどうしたらいいか話し合う。 4 自分たちができそうなことをまとめ、計画を立てる。	○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 学級全体の問題として児童主体で話し合いをさせたい。互いの意見のよさに触れることで、認め合えるような雰囲気作りに努める。 ○ 自分たちで実践できそうな視点で話し合うよう助言する。 ◇ 学級の長所を考え、そのその長所をさらに伸ばすためのアイデアを発表しているか。
終末	5 本時の活動を振り返り、教師の話聞く。	◇ 話し合いのめあてを達成することができたか。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 本時の活動をもとに、係活動や普段の生活の中で実践する。 (随時)	○ 係活動や普段の生活の中で、話し合いの内容にあった場面を見つけて称賛する。 ◇ 学級の長所を伸ばすために自分たちでできることを実践しているか。

# 1 題材名 人の気持ちを考えた言葉遣い【内容(2) 生活習慣】

指導の時期 10月

## 2 題材について

この時期の6年生は、慣れ親しんだ学級の人間関係の中で、学校生活を過ごしている。それは同時に、言葉遣いの丁寧さを欠く関係につながっているともいえる。テレビの影響もあり、強い口調での会話がなされることも多い。思春期を迎えた子どもたちは、ちょっとした言葉の行き違いや表現の雑さにより、深く落ち込み、人間関係を崩してしまうこともある。また、放っておけば崩れてしまう公正公平な教室の雰囲気、対等な人間関係を保つためにも、本題材を通じて、言葉遣いを大切にしようとする意識を育てたい。

## 3 題材の目標

- 学級の中での言葉遣いの在り方について関心をもち、人の気持ちを考えた言葉遣いを学級のみんなで大切にしていこうとする話し合いに進んで参加しようとしている。  
(関・意・態)
- 学級の中での言葉遣いの在り方を考え、人の気持ちを思いやる言葉遣いを学級のみんなで大切にしていこうする方法について、自分の意見を発表することができる。  
(思・判・実)
- 公正公平かつ対等な人間関係を保つ学級にするためには、一人一人が人の気持ちを考えた言葉遣いをしていくことが大切であるということが分かる。  
(知・理)

## 4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 温かい人間関係を築くためにはどのような言葉遣いをしたらよいかを考え、話し合いの中で出てきた言葉をつかっていこうとする。(実践力)
- ◆ 学級や学校の仲間との間で交わされる言葉遣いの大切さについて考え、互いの気持ちを考えて話すことの大切さを実感させる。(2-(1) 礼儀)

## 5 題材の展開

### (1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ あいさつについてのアンケートに回答し、計画委員は集計する。 (帰りの会)	○ これまでの学校生活を思い出しながら、言葉遣いについて改善したいところを書き出すよう助言し、話し合いの内容の焦点化を図る。

### (2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「人の気持ちを考えた言葉づかいをしよう」
- ② 活動のねらい 学級の友達と心地よく過ごし、これからもよい関係でいることのできる言葉遣いについて話し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 司会は、今日の活動テーマを確認する。 2 「人の気持ちを考えた言葉遣い」について、教師の話聞く。	○ 人の気持ちを考えた丁寧な言葉遣いというものは、公正公平を大切にし、みんなが健やかに対等に過ごす学校生活に不可欠なものであることを話し、本時の話し合いへの意欲付けを図る。
展開	3 学級の中で見られる言葉遣いの問題点について、発表する。 4 問題点の解決策や改善策を話し合う。 5 発表をもとに、今後学級での言葉遣いについて、大切にしていきたいことを話し合う。	○ 隣の席の児童と話をさせたり、近くの席の児童と話をさせたりして、自分の思いを表出させる場を作る。 ○ 実現可能な策であること、みんなが意識して取り組めばよい方向へ向かう策であることなど、自分たちでできることを話し合う。 ◇ 公正公平かつ対等な人間関係を保つ学級にするためには、一人一人が人の気持ちを考えた言葉遣いをしていくことが大切であるということを理解し、考えているか。
終末	6 本時の活動を振り返り、教師の話聞く。	○ 話し合った内容を今後の生活に生かし、継続していくことが必要であることを話し、本時の話し合いでの課題意識を継続してもつことができるようにする。

### (3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分のめあてを明確にして実践する。 (常時活動)	○ 自己評価をもとに、言葉遣いの改善策を考え、日常生活で実践していけるよう助言する。 ◇ 自分のめあてをもとに、人の気持ちを考えた言葉遣いを実践できているか自己評価する。

1 題材名 学校図書館の利用【内容(2) 学校図書館】 指導の時期 10月

## 2 題材について

読書について、荒川小学校では、月曜日と木曜日の朝の学習として読書の時間を取り入れたり、校内読書週間を設け読書を促したり、南那須図書館と連携して巡回図書館を定期的に行ったりし、児童に読書の大切さや面白さを伝える取り組みを行っている。朝の学習や新しい本が入ったときには、進んで本を読む児童は多いが、定期的に読書している児童は少ない。また、委員会活動を通して、読書を推進している児童がいるが、何名かにとどまっている。今回の題材では、自分のお気に入りの本の帯を作り、おすすめの本について紹介し、さらに児童の読書の意欲を高めたい。今までに読んだことのなかった本や、新しい分野の本に触れる機会を通して、読書の幅を広げたり、読書への関心を高め、進んで読書をする態度を育てていきたい。

## 3 題材の目標

- おすすめの本を紹介するために、進んで本を読んだり、本の帯を作ったりしている。  
(関・意・態)
- 本の内容をもとに帯を作成し、おすすめの本を紹介することができる。  
(思・判・実)
- 本を読んだり、本を紹介する活動を通して、読書する楽しさや大切さが分かる。  
(知・理)

## 4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 本を紹介する活動を通して、今までに読んだことのなかった本や、新しい分野の本にも興味・関心をもち、発表を認め合いながら話を聞こうとする態度を養う。  
(実践力)
- ◆ 様々な分野の本に触れることで、読書への意欲を高め、内容を通して心情を読み取ったり考えたりし、相手への思いやりの気持ちをもち、(2-2) 思いやり・親切
- ★ 本に親しみ、読書に楽しさや喜びを味わわせ、豊かな心情を育てる。  
(学校図書館教育)

## 5 題材の展開

### (1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おすすめの本を見つけておく。</li> <li>・ おすすめの本について帯を作成しておく。 (朝の学習・ふれあいタイム)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際の本の帯をいくつか準備し、児童が参考にできるようにしておく。</li> <li>○ 本の帯にポイントをまとめたり、絵を入れたりして、読み手が引きつけられるような工夫をするよう声をかける。</li> </ul>

### (2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「おすすめの本は？」

② 活動のねらい 作成した帯を使い、おすすめの本を紹介することができる。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 一人ずつ、おすすめの本を紹介していくことを説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書画カメラを準備し、本や帯を拡大して提示する。</li> <li>○ 最後に感想を伝える機会があることを説明し、発表の聞き方について指導する。</li> </ul>
展開	2 おすすめの本を紹介し合う。 3 紹介に対して、感想を伝え合う。 4 本と帯を教室に掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際の本や作成した帯を提示しながら発表するよう指示する。</li> <li>○ 帯に書いた内容や絵に理由をつけながら発表するなど、様々な紹介の仕方があることを伝える。</li> <li>◇ おすすめの本を紹介したり、紹介を聞いた感想を付箋に記入し、友達に伝えることができる。</li> </ul>
終末	5 本時の活動内容をふり振り返り、感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の活動内容を振り返り、感想を記入させる。</li> <li>◇ 本時の活動について感想を記入したり、気になった本の名前を書いたりしている。</li> </ul>

### (3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動後に掲示した帯や本を見て、進んで読書する。 (常時活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書室でも帯と本と一緒に掲示し、全校生の目に触れる機会を作ること、活動への達成感を感じさせる。</li> <li>○ 読書の記録を活用し、読んだ本の記録を目に見える形で残しておくように伝える。</li> </ul>



1 題材名 食事への関心【内容(2) 給食・食習慣】 指導の時期 1 1 月

## 2 題材について

6年生のこの時期になると、朝食を摂らずに登校する児童や自分自身の栄養バランスについては疎い児童が多いのが実態である。ここでは、バランスの取れた食事を継続的に食べることができるような意識付けをしたい。さらに、給食センターとの連携を図り、児童一人一人の食事の摂り方の様子を振り返らせ、バランスの取れた食事ができるようにさせたい。

## 3 題材の目標

- 給食や家庭での食事の栄養バランスについて、栄養教諭のアドバイスや科学的データをもとにして、進んで見直しをして、よりよい食生活の在り方を考えている。  
(関・意・態)
- 給食や家庭での食事の栄養バランスについて、栄養教諭のアドバイスや科学的データをもとにして、自分の食生活を振り返り、よりよい食生活の在り方を見つけることができる。  
(思・判・実)
- 栄養バランスの取れた食生活によって、健康な生活が送れることが分かる。  
(知・理)

## 4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◆ 自分の食生活を振り返り、何らかの改善をしていく展開にしていくことから、自己の生活を見直す観点を強調し、節度・節制を旨とした生活の大切さに気付かせる。  
(1-(1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制)

★ 健康な体を作り、維持するための食事や栄養について考える活動を通して、正しい食事の在り方と望ましい食習慣を身に付けさせるようにする。(食に関する指導)

## 5 題材の展開

### (1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 計画委員が1日の食事の献立を調べておくよう連絡する。 (帰りの会)	○ 家庭科の学習の成果を生かしたり、家庭科の先生に聞いて調べたりするよう助言する。

### (2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「食事の栄養バランスを振り返ろう」  
② 活動のねらい バランスの取れた食生活について振り返り、自分の食生活を見直そう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 バランスの取れた食事の大切さや必要性について教師の話聞く。	○ 給食のおいしさの面だけでなく、栄養の面を中心に考えていくことを確認する。
展開	2 1日の食事の献立について調べたことを発表する。 3 資料と自分の献立を比較し、栄養の過不足をとらえ、よりよい献立について話し合う。 4 給食や家庭での食事について、よりよい在り方を話し合い、まとめる。	○ 調べてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 互いにアドバイスし合って補填し合い、実現可能な献立を考える。 ◇ この活動を通して、自分の食生活を振り返り、よりよい食生活の在り方を考えることができたか。
終末	5 本時の活動を振り返り、教師の話聞く。	◇ 話し合いのめあてを達成することができたか。

### (3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 本時の話し合いをもとに、各自が給食や家庭での食事の時間の中で実践する。 (給食)	○ 給食時や朝の会、帰りの会等で実践の様子について話題として取り上げ、意識の継続化を図るようにする。

1 題材名 2 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 1 2 月

2 題材について

2 学期は最上級生として、学級、学年単位での活動だけでなく、学校のために活動する機会が数多くあった。一つ一つの活動が小学校生活最後になっていく中で、学校を運営していく達成感や充実感を感じながら、下級生のお手本としての自覚と自信をもって、学校生活を送っているといえる。そこで、2 学期の活動や、自分たちの成長を確かめながら今学期を振り返り、小学校最後の学期へ向けてさらに自分を伸ばしていきたいという意欲を高めさせたい。

3 題材の目標

- 2 学期の学習や生活について振り返り、自分の成長を実感し、さらに自分の高めたいところや学校のために取り組みたいことを考えようとする。(関・意・態)
- 2 学期の学習や生活について振り返り、自分や学校のために3 学期さらに伸ばしていきたいところを考えることができる。(思・判・実)
- 2 学期の反省をもとに3 学期の学校生活について考える活動を通して、めあてをもって努力することや実践することの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくことの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等)	○ 2 学期の生活を振り返らせ、どのような生活を送ってきたかについて、楽しかったことやがんばったこと、大変だったことを中心に記述させる。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「2 学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 2 学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、2 学期の生活について振り返る。	○ 学習や生活の様子を想起できない児童には、学校行事や学年行事等の様子を伝え、想起できるよう支援する。
	2 教師の話聞く。	○ 2 学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。
展開	3 3 学期にどのように生活していきたいか話し合う。	○ 校訓「かしこく、なかよく、たくましく」にもとづいて考えさせる。
	4 3 学期のめあてを記述する。	○ 2 学期のめあてで達成できなかったものは、3 学期に継続してもよいことを伝える。
	5 記述したことを発表する。	◇ 2 学期の生活について振り返り、3 学期のめあてを立てることができたか。
終末	6 教師の話聞く。	○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、3 学期の学校生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動)	○ めあてを掲示し、めあてが達成できているか適宜問いかける。 ◇ めあてに沿って生活しようとしているか。

1 題材名 冬休みの生活【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 1 2 月

2 題材について

6年生にとっては、2学期に中学校説明会もあり、卒業・進学に向けての準備が少しずつ始まっていく時期である。中学校進学之年となる新年への心構えをもたせながら、小学校での学習を振り返る時期でもあるため、計画的に過ごすことができるよう、休業中の学習や生活の仕方について児童自らが考え、やり遂げる達成感を味わわせる。

本題材は、冬季休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、夏季休業で学んだことを生かして、どのように計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせる。そして、冬季休業をよりよいものにしていこうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 冬季休業中の学習や生活について、進んで計画を立てたりめあてを考えたりしようとする。 (関・意・態)
- 冬季休業中の学習や生活について、望ましい生活リズムや学習計画について考え、計画を立てたり、めあてを記入したりすることができる。 (思・判・実)
- 冬季休業中の学習や生活について、計画を立てて取り組むことの大切さを知る。 (知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

◆ 計画を立て、自分で立てためあてを意識することによって、望ましい生活習慣について考え、節度ある生活を送ろうとする態度を育てる。

(1-(1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 冬休みの計画表に、冬季休業中の予定を記入する。(家庭)	○ 学年懇談会や学年だよりで、夏季休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した冬休みにしよう」

② 活動のねらい 冬休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、冬休みの生活について、教師の話聞く。	○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について
展開	2 冬休みのめあてを立てる。 3 冬休みの学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。	○ 無理なく取り組めるめあて、計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、冬休みの計画を立てているか。
終末	5 教師の話聞く。	○ 冬季休業の過ごし方の大切さを説明し、冬季休業の生活への意欲を高める。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画やめあてを意識して冬休みの生活を送る。(冬休み)	○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に冬季休業を過ごすことができたか。(課題、日記等の提出状況)

1 題材名 心の疲れ【内容(2) 健康・安全(心)】 指導の時期 1月

2 題材について

この時期の6年生は友達関係や進学に対するストレスを感じるようになる。このストレスの原因は何か、どのように解消していくか、率直に話したい。必要に応じて養護教諭の協力を得るようにする。この活動では、互いのストレスを打ち明ける場面があることから、教師が友達同士の意見を認め合える雰囲気作りに努めることが大切になる。互いの考えの違いを認め合ったり、ストレス解消のアイデアを共有したりするなど、児童同士が日常の生活場面で不安解消をして励まし合える関係作りができることも期待したい。

3 題材の目標

- ストレスの解消法についてのアイデアを述べ合ったり、自分に取り入れられる解消法を進んで考えている。(関・意・態)
- ストレスの解消法の様々なアイデアを出し合い、学級でできる企画を考えたり、日常生活の中でできる解消法を考えたりすることができる。(思・判・実)
- 日常の生活にストレスを感じているのは自分だけではないことに気づき、互いに励まし合いながらストレスを解消することが大切であることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◆ ストレス解消を計画・実行していくことにおいて、互いに不安な気持ちを分かち合いながら、友情や信頼といった友達との関係性が前提として大切であることを伝えたい。(2-(3) 友情・信頼、助け合い)
- ★ 自分に合った不安や対処方法を考えるだけでなく、友達の不安や悩みについても適切に関わっていくことができるようにする。(保健指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 計画委員が普段感じているストレスやその解消法を書いてくるように伝える。(帰りの会等)	○ 人間関係に関する内容が表記されていることが予想されるので、その扱いについては十分注意する。

(2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「ストレスフリー大作戦」
- ② 活動のねらい ストレス解消法のアイデアを出し合い、解消法の作戦を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 ストレスを解消することについて教師の話聞く。	○ 誰もがストレスを感じていることを伝え少しでも不安を和らげるようにする。
展開	2 普段感じているストレスやその解消法を発表する。 3 出されたアイデアをもとに、学級全体でできることはないか話し合う。 4 比べ合ったことをもとに、意見をまとめる。	○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 互いのアイデアを認め合えるようにする。なお、人に迷惑をかけたり、人を傷つけたりしない方法で取り組むことができるよう助言する。 ○ 日常的に取り組める内容については、計画を立てて実践していくことを確認する。 ◇ ストレスの解消法の様々なアイデアを出し合ったり、学級でできる企画を考えたりすることができるか。
終末	5 本時の活動を振り返り、教師の話聞く。	◇ 話合いのめあてを達成することができたか。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ ストレス解消大作戦に進んで参加する。(帰りの会・随時)	○ 帰りの会等、随時ストレス解消大作戦の時間を確保し、運営を支援する。 ◇ 互いに励まし合える関係作りができていますか。

# 1 題材名 卒業に向けて【内容(2) 希望・目標】

指導の時期 2月

## 2 題材について

小学校生活最後の行事である卒業式を直前に控え、自分の小学校生活を振り返ったり、卒業式への思いを話し合ったりして、卒業式への主体的な取り組みへの心構えをもつことができるようにする。また、中学校への進学への展望を話し合うことで、中学校生活に対しての自分の夢や目標をもとうとする態度を育てていきたい。

## 3 題材の目標

- 小学校生活を振り返ったり、中学校生活について話し合ったりしたことをもとに、自分の目標を進んで考えている。(関・意・態)
- 卒業式の意義や内容、中学校生活について話し合うことにより、夢や希望をもち、自分の目標を発表することができる。(思・判・実)
- 卒業式の意義や内容、中学校生活の様子が分かる。(知・理)

## 4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 1年間の生活を振り返ったり、上級生の生活の様子をしっかりとって、来年度の自分のめあてを立てることができる。(技能)
- ◆ これから始まる中学校生活に向けて、希望をもつことの大切さや挫折感を克服する人間の強さについて考えられるようにする。(1-(2) 希望、勇気、不撓不屈)

## 5 題材の展開

### (1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 計画委員が小学校生活を振り返ること、中学校生活について調べておくことを伝える。 (帰りの会等)	○ 児童が卒業式の心構えをもつことができるように、焦点を絞ったガイダンスをする。

### (2) 本時の活動

- ① 活動テーマ例 「卒業式と中学校へ向けての心構えをもとう」
- ② 活動のねらい 卒業式の心構えや中学校生活への夢をもとう。  
みんなで励まし合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 卒業式の心構えや意義、内容など、教師のガイダンスを聞く。	○ 危なかったときの周りの状況や様子について、分からなかったことなどを質問するばを計画の段階で設定し、安全な乗り方の話合いに関心を高める。
展開	2 卒業式に臨む自分の思いと中学校生活の情報を発表する。	○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。
開	3 自分がもっている夢や希望、不安などを発表し合う。	○ 論点がずれたり、話題がそれたりした場合は、今、何を話し合っているか確認させる。
	4 互いにアドバイスし合う。	◇ 友達と話し合う活動や互いにアドバイスし合う活動を通して、卒業式への思いが高まり、中学校生活への希望がもてるようになったか。
終末	5 本時の活動を振り返り、教師の話聞く。	◇ 話合いのめあてを達成することができたか。

### (3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 学級で卒業を祝う企画の計画を立てる。 (休み時間等)	○ 企画の時間を確保し思い出に残るような活動ができるようにする。
・ 計画を実践する。 (卒業式前日)	◇ 教師も一緒に卒業を祝い、活動を楽しむようにする。

1 題材名 3 学期の反省【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 3 月

## 2 題材について

6 年生は学校での最高学年として、様々な場面で下級生のお手本となってきた。毎日の授業や学校行事では、常に高学年としての意識をもち、リーダーシップを発揮しながら何事にも一生懸命取り組んできた。そのような経験を通して、現在の 6 年生は、自信をもって学校生活に臨んでいると考えられる。そこで、1 年間の活動や自分たちの成長を確かめながら 3 学期を振り返り、中学校への進学に向けてさらに自分を伸ばしていきたいという意欲を高めさせたい。

## 3 題材の目標

○ 学級の話し合いの中で 1 年間の活動を振り返り、よかったことや今後改善していきたいことを考え、反省を踏まえながら来年度のめあてを考えようとする。

(関・意・態)

○ 自分の長所や短所を考え、改善点を踏まえて、来年度のめあてを立て、学校生活の中で実行している。

(思・判・実)

○ めあてを立て、それに向かって努力することや実践していく大切さが分かる。

(知・理)

## 4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 友達の意見のよさに気付き、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)

★ 振り返りと新たなめあてによって、生活が少しずつ向上していくことに気付かせ、近い将来を設計していくことの大切さや必要性に気付く。(キャリア教育)

## 5 題材の展開

### (1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 「自分につける通知表」に取り組む。 (帰りの会等)	○ 3 学期の生活を振り返らせ、楽しかったことやがんばったこと、大変だったことを中心に記述させる。

### (2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「3 学期を振り返ろう」

② 活動のねらい 1 年間の生活と 3 学期の生活を思い出し、自分をさらに伸ばすめあてを考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、3 学期の生活について振り返る。	○ 3 学期の生活を振り返り、何をどのように頑張ったのかを具体的に確認することで、明確なめあてづくりにつなげる。
	2 教師の話聞く。	○ 3 学期の生活に改善点がない児童にも、課題意識や目的意識をもたせる声かけをする。
展開	3 来年度はどのように生活していきたいか話し合う。	○ 振り返りの反省をもとに、新たなめあてを考えることで、自分を伸ばしていけるようなめあてをかけるようにする。
	4 来年度のめあてを記述する。	○ 中学校生活の概要を話すことで、児童が具体的なイメージをもちながら、めあてを考えられるようにする。
	5 記述したことを発表する。	○ 3 学期のめあてで達成できなかったものは、中学校でも継続してもよいことを伝える。 ◇ 3 学期の生活について振り返り、来年度のめあてを立てることができたか。
終末	6 教師の話聞く。	○ めあてが書けたことや発表したことを称賛し、来年度の中学校学校生活への意欲を高める。

### (3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 自分の振り返りとめあてを意識して生活する。 (常時活動)	○ 来年度の生活について、進学を意識した言葉をかける。 ◇ 振り返りをもとに立てためあてに沿って生活しようとしているか。

1 題材名 中学校生活に向けて【内容(2) 希望・目標】 指導の時期 3月

2 題材について

6年生にとって学年末・学年始休業は小学校生活最後の長期休業となる。今年度のふり取りと共に進学への意識、次年度の中学校での学校生活の意欲を高める重要な時間である。これまでの長期休業の過ごし方で学んできたことを生かし、保護者の協力を得ながら充実した春休みを過ごすことで、中学校進学への準備期間としていきたい。そこで、本題材は、学年末・学年始休業中の生活、学習の仕方等を取り上げ、長期休業で学んだことを生かして、どのように計画を立て、過ごしていけばよいかを考えさせる。そして、学年末・学年始休業をよりよいものにし、進学に向けてがんばろうとする意欲を育てたい。

3 題材の目標

- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、これまでの長期休業中に学んだことを振り返り、進学を意識して、進んで計画を立てたり、めあてを考えたりしようとする。  
(関・意・態)
- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、自ら望ましい生活リズムや学習計画を考え、実行できる計画を立てたり、めあてを記入したりすることができる。  
(思・判・実)
- 学年末・学年始休業中の学習や生活について、計画を立てたり、計画的に取り組んだりすることの大切さを知る。  
(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 友達の意見のよさに気付く、自らの生活に取り入れて問題を解決し、生活を向上させようとする。(実践力)
- ◆ 計画を立て、自分で立てためあてを意識することによって、望ましい生活習慣について考え、節度ある生活を送ろうとする態度を育てる。  
(1-(1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 春休みの計画表に、学年末・学年始休業中の予定を記入する。 (家庭)	○ 学年だよりで、学年末・学年始休業を計画的に過ごすことの大切さを保護者に説明し、協力を得られるよう配慮する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「充実した春休みにしよう」

② 活動のねらい 春休みを楽しく過ごすための計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認し、春休みの生活について、教師の話聞く。	○ 項目を分けて、分かりやすく説明する。 (例)健康な生活について 安全な生活について 計画的な学習について ○ 来年度を意識できるような声かけをする。 ○ 小学校と中学校の違いや、中学校での生活の様子を説明し、具体的なめあてを立てる参考にさせる。
展開	2 春休みのめあてを立てる。 3 春休みの生活や学習計画を立てる。 4 記述したことを発表する。	○ 見直しをさせ、実行可能な計画を立てさせる。 ○ 家族行事や育成会行事等にも進んで参加するよう話す。 ○ 責任をもって行うこと(家事や手伝い)を決めさせる。 ○ 中学校への進学への準備も意識させる。 ◇ 計画的に過ごすことの大切さを理解し、望ましい春休みの計画を立てているか。
終末	5 教師の話聞く。	○ 学年末・学年始休業の過ごし方の大切さを説明し、学年末・学年始休業の生活への意欲を高める。 ○ 最高学年としての自覚をもつよう話をする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画やめあてを意識して春休みの生活を送る。 (春休み)	○ 計画的に生活することが困難な児童、家庭には、連絡を取り、話を聞く。 ◇ 計画的に学年末・学年始休業を過ごすことができたか。(課題、日記等の提出状況)

1 題材名 私の誕生【内容(2) 健康・安全(体)】 指導の時期 1 1 月

2 題材について

思春期は心や体が著しく発達する時期であり、多様な心や体の悩みが出現する時期でもある。この思春期の入り口に立った6年生に対し、正しい知識を教え、命の大切さや男女の違いについての理解を深め、自分と向き合う機会を設けることで、他者への思いやりの心を育て自分も大切にすることができるようになる。

ここでは、養護教諭や保健師、助産師の協力を得て専門的な立場から説明や話をしてもらうことで、より具体的に理解できるようにする。

3 題材の目標

○ 助産師の話から命の大切さや体や心の成長に関心をもち、積極的に授業に参加している。(関・意・態)

○ 自分自身はもちろん他者を大切にし、尊重し合い、適切な判断や行動選択ができる。(思・判・実)

○ 思春期が多様な心や体の悩みが出現する時期であることを理解し、生命誕生と深い関わりがあることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 命の大切さや男女の違いについての理解を深めることで、自分や他者を大切にすることが育ちを養う。(知性)

◆ 人の誕生や成長過程について知ることにより、生命の尊さに気付かせる。(3-(1) 生命尊重)

★ 生命誕生、命の尊さについて考える活動を通して、生活習慣を見直し、よりよい生活習慣の定着を図る。(保健指導)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 事前にワークシートに記入する。 (朝の会・帰りの会等)	○ 現在の自分と向き合い、自由に記入してよいことを助言する。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「命の誕生について考えよう」

② 活動のねらい 生命誕生・命の尊さについて知り、自他の命を大切にしよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 「活動のテーマ」と「活動のねらい」を確認する。 2 保健師、助産師の紹介をする。	○ 自分たちが思春期という時期に入っていて、体や心に変化する時期であることを確認する。 ○ 専門的な立場から生命誕生について話を聞き、課題意識や目的意識をもたせる。
展開	3 命の始まりや胎児の成長などについて説明を聞く。 4 思春期について、性差や心身の変化について考える。 5 赤ちゃん人形を抱っこして命の重みを感じる。 6 自分の宝物について発表する。	○ 受精卵の大きさの穴が開いた折り紙を配布し、命の始まりについて関心をもたせる。 ○ 胎児や赤ちゃんの成長について知り、生命の尊さに気付くようにする。 ○ 男女の思春期の体の変化について復習し、自分の体や心に変化してきていることに気づくようにする。 ○ 自分の成長過程を振り返り、両親に感謝の気持ちをもつとともに、自分や他者を大切にすることが育ちを養うようにする。 ◇ 生命誕生・命の大切さについて理解し、自分や他人を大切にしようとする気持ちがもてたか。
終末	7 本時について振り返り、教師の話を聞く。	○ 本時の感想、今後実践していきたいことを記述させ、実践意欲が高まるようにする。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 他者を思いやり、適切な判断や行動ができる。 (随時)	○ 不安なことや心配なことがあるときには、大人や友人に相談するように助言する。 ◇ 自分や他者を尊重し、適切な判断や行動選択を行おうとしているか。